

FACE

一人一人に寄り添い ともに病気と向き合う

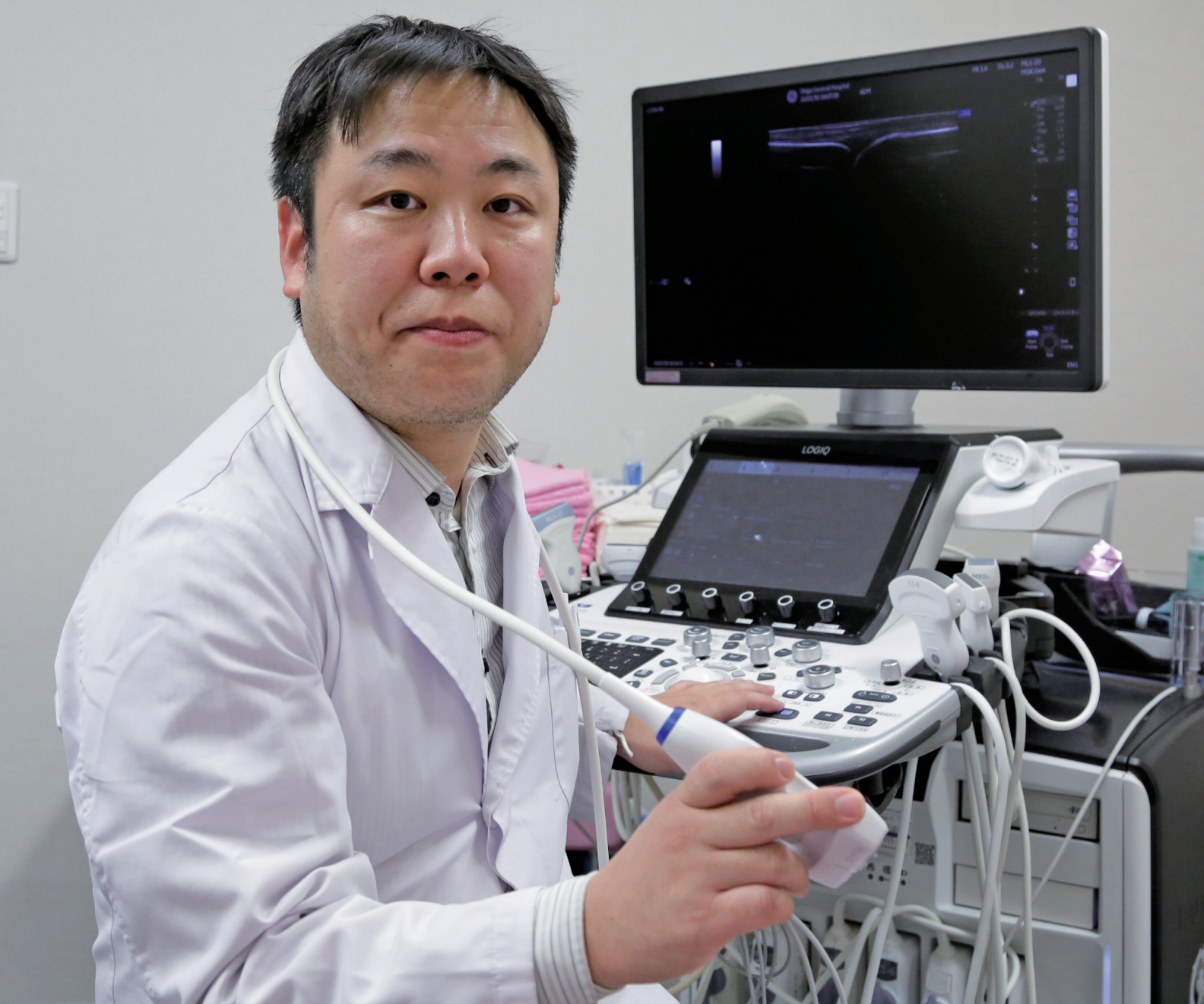
私は福島県出身で2008年に京都大学医学部を卒業後は、奈良県にある天理よろづ相談所病院で初期研修を行い、そのまま後期研修も同院総合内科に属して各内科をローテーションしながら総合診療を学びました。総合内科では各専門科の領域に当てはまらず困っていた患者さんが最終的には膠原病と診断されることに感銘を受け、膠原病を専門とすることを決めました。また東日本大震災では福島県の鹿島厚生病院に1ヶ月診療支援として派遣して頂き内科医としてお手伝いしました。大学院では京都大学大学院医学研究科臨床免疫学教室で膠原病診療を学びながら、ウイルス研究所でウイルスに対する自然免疫応答の異常で起こる自己免疫現象について研究しました。大学院修了後は京都大学医学部附属病院リウマチセンターで関節リウマチの臨床研究を行うとともに、より特化して診療を行うことで関節リウマチの知識を深めました。2024年から現在の滋賀県立総合病院に赴任し幅広く膠原病診療を行っています。総合診療の経験も生かしながかなか診断のつかない症例も診ていますので、膠原病を疑っていない場合でも困ったことがあればご相談下さい。

免疫内科 科長

鬼澤 秀夫



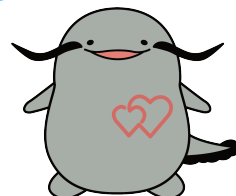
日本内科学会 認定内科医
日本内科学会 総合内科専門医
日本リウマチ学会 認定専門医・指導医



Information

滋賀県立総合病院Instagram・Facebookのご案内

病院の活動を発信しています。
ぜひフォローをお願いします！



イメージキャラクター「びわずん」



Instagram



Facebook

ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見や
ご感想をぜひお寄せください。
お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォーム
よりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌
「FACE」に関するアンケートフォーム



笑顔で患者に寄り添いチームで取り組む姿勢を基本とし
子どもから大人まで安心・信頼・満足の得られる高度かつ専門的な医療の実現



〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号
TEL : 077-582-5031 (代) / 0570-00-5031 (ナビダイヤル)
【診療受付時間】 午前8時30分～午前11時 ※2科受診の患者様を除く
【休診日】 土曜日・日曜日、祝祭日 / 年末年始 (12/29～1/3)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/index.html>

滋賀県立総合病院



FACE

滋賀県立総合病院広報誌

発行：滋賀県立総合病院広報委員会（事務局総務課）
発行日：2026年3月

バックナンバーも
ご覧いただけます



【特集】免疫内科

豊富な経験と
最新の知識を基に
ベストな医療を

糖尿病・内分泌内科
Diabetes, Endocrinology and Metabolism

免疫内科
Immunity

整形外科
Orthopedic Surgery

F 外来受付
Outpatients Reception



膠原病

免疫内科では膠原病を主に取り扱っています。膠原病のもともとの定義は、1942年にクレンペラーが提唱した、結合組織の膠原線維に病変を有する関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの病気のグループの総称になります。現在では自己免疫異常が全身の臓器に生じた疾患を膠原病と指すことが多くなっています。一つ例を挙げますと、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患は消化管の自己免疫疾患であり、多くは消化管のみに障害を起こすために消化器内科が担当する病気になります。ただし脊椎関節炎という関節炎を合併した場合には私達も協力して診療に当たります。また壊疽性膿皮症おそすいのうひしやうと言う皮膚疾患を合併した場合には消化器内科と皮膚科で診療する

わけですが、その調整役を私達が担うことができます。更に自己免疫疾患の治療では、ステロイドや免疫抑制薬が用いられますが、その扱いに一番慣れている科になりますので治療のお手伝いをすることもあります。

当科のあゆみ

当科の歴史は比較的浅く、2003年に京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科の支援のもとで週1回の外来診療を開始しました。2021年からは常勤医1名が赴任し当科での入院対応も可能になりました。2025年には常勤医が2名と、患者数の増加に対応して医師の数も増員しており、紹介患者さんの予約待ち日数をある程度減らすことができました。それでも紹介元の先生方のご判断で早めに診療した方がよい場合

などは適宜ご相談くだされば当日でも診察致します。

関係医療機関のみなさんへ

膠原病の診断は非常に難しく、専門医でも診断に悩むことが多々あります。膠原病ではないかもしれないとご紹介を躊躇される必要は全くありません。また一度当院を受診して膠原病は否定的とされた場合でも、持続する経過や新しい症状が手掛かりとなり診断に至ることもありますので再度ご紹介くださると有難く存じます。対応に苦慮される症例がありましたら一度ご相談ください。滋賀県の膠原病患者さんのために精進して参ります。

当院免疫内科の特徴

当院は滋賀県で数少ない、膠原病内科医が常勤で診療している病院です。そのため患者さんは広く滋賀県全域から通院頂いています。担当するのは膠原病内科の研鑽を受けたリウマチ専門医2人、未来の膠原病診療に情熱を持った専攻医、京都大学で最先端の研究を行う非常勤医、そしてこれまで当院の膠原病診療を一手に担ってきたベテラン血液内科医がそれぞれ協力し合って診療しています。対象疾患も幅広く（表1）、関節リウマチ患者数も滋賀県有数の病院と自負しています。関節エコーやMRIを用いた確定診断や緻密な経過観察が可能ですし、治療では各種生物学的製剤、JAK阻害薬を数多く使用しています。膠原病は様々な臓器に障害を来しますが有難いことに当院は各専門科が高度な専門性を有しており、密に連携を取りながら診療に当たっています。

表1 令和6年度の主な疾患別受診患者数

関節リウマチ	776	全身性エリテマトーデス	141	成人スティル病	25
リウマチ性血管炎	4	皮膚筋炎 / 多発性筋炎	56	ベーチェット病	42
リウマチ性多発筋痛症	73	強皮症	102	IgG4 関連疾患	26
RS3PE 症候群	13	混合性結合組織病	28	キャッスルマン病	8
脊椎関節炎	70	シェーグレン病	107	TAFRO 症候群	6
SAPHO 症候群	22			再発性多発軟骨炎	11
若年性特発性関節炎	8	顕微鏡的多発血管炎	48	サルコイドーシス	6
分類不能関節炎	30	多発血管炎性肉芽腫症	10	家族性地中海熱	5
関節痛	46	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	22	抗リン脂質抗体症候群	7
		高安動脈炎	20		
		巨細胞性動脈炎	14		
		結節性多発動脈炎	7		

